

2006・2・11(土) 「みんなで話そう、調布の自然」

## ちょうふ環境市民懇談会・第5回全体会を開催！

### とことん討論 (みんなの広場)

水・雑木林・景観チームごとに、今後の保全活動に向けて話し合い、発表しあいました。



雑木林チーム



景観チーム



水チーム

水チームの発表。「佐須地区の水  
路や田んぼ人をつなげ、調布の環  
境保全のモデルにしていきたい」



### 基調講演 (たづくり8F映像シアター)

調布市では現在、環境基本計画を策定中です。策定案には、環境市民懇談会からもこれまでの活動から見てきた課題・提言を反映させてきました。計画は18年度～27年度までの環境施策の基本になるものですが、計画を実際に実現させていくためには、私たち市民がどう動いていけばいいのでしょうか？

懇談会運営委員会では、市環境基本計画の策定委員長でもある鬼頭秀一さんに、今は忘れられている「遊び仕事」をキーワードに今後の市民活動のあり方について講演をお願いしました。

講演では、経済一辺倒のこれまでの価値観を見直すきっかけとして改めて里山の人たちの暮らしに注目した「遊び仕事」や市民活動の事例の紹介などがありました。また「調布でこれまで市民がやってきたさまざまな調査事例などを、もっと共有していく工夫が必要」などの提案もいただきました。

参加者からは、「市民が元気に活動できるためのヒントをいただいた」「まず地元の古老に会いに行きたいネ」「何ととっても信頼関係がすごくすごく大事」などの感想が寄せられました。

### 展示部門

たづくり 11 階みんなの広場で 1 週間展示しました。



「ちょうふの自然だよりは私たち市民3人で編集しています」



# 調布 D E 田んぼ日記その 30 ~ 田んぼの学校 ~

## 冬季湛水(とうきたんすい)とは、

前回も書きましたが、今年の田んぼの学校では冬季湛水農法を試しています。冬場でも田んぼに水をはり、土壌の水生生物の力を借りて、農薬や肥料を使わずに雑草を除き、田んぼの土の養分を豊かにする農法です。これに大きな役割を果たしているのは主にイトミミズだということです。

4年ほど前に田んぼでイトミミズが大発生したことがありました。このイトミミズの糞がコロイド状のトロトロな土となります。これが雑草や種にかぶさって、十分に育つための日光が得られないため雑草の繁殖が妨げられるのです。またこの糞は養分をふくんでいるだけでなく、とても粒子が細かいので、土の隙間に敷き積もり、田んぼの保水力(水持ち)をととても良くしてくれるのだそうです。



## 生きものにもやさしいが、難しい

このほかに、生き物たちの生息場所を増やすためにも冬季湛水農法は効果があるのではないかと考えています。アマガエルなどは3月には産卵の時期を迎えます。カワニナやモノアラガイ、サカマキガイやトンボの卵やヤゴ、ごく少数ですがドジョウの仲間などが冬場でも水の中で生きています。しかし冬場でも田んぼに水をはるのは難しいです。通りかかる人たちから「ドジョウを飼うつもりかい?」と声がかかります。ドジョウは冬眠のために群れになって土にもぐるそうです。そのような環境が昔の水路にはありました。

今の三面張りのコンクリート水路は生き物たちにとっては住みにくい環境です。ただ、周辺の生産緑地では野菜栽培が主になっているため、湿田のような湿った土は野菜の生育にとっては不向きなことも確かです。どのような環境と畑や田んぼのあり方が望ましいのか悩みつつ、今年の豊作祈願に向かいました。



## 佐須町の「どんど焼き」

1/14(土) 佐須では地元の人たちが祇園寺の正面の畑で「どんど焼き」を毎年開催してくれます。このような行事が残っているのも、また火を焚ける場所があるのも調布では数箇所しかありません。

餅つきをし、年男や年女(?)の子供たちが、厄払いの火を焚き習字や去年の厄除けのお札などを焼きます。そして最後にお団子を焼いて、学業の上達や無病息災を祈ります。

まずはこうした活動を続けられている皆さんのご努力に感謝し、そして地域の方々とともに文化を残していくことや、環境保全の活動を、また今年も続けたいと祈りました。(田んぼの学校こんどう)

## 里山の保全・・・市民のうごき

1月 ~ 2月

### ちょうふ環境市民懇談会 れんらく会記録より

#### 環境モニター

2/4 午前:市役所にて前回の続きである植物標本の作成をした。午後:全体会の準備で展示パネルをつくった。

次回3/4は午前、小澤講師と多摩川のワンドの観察、午後は次年度の活動計画について相談する。(里)



### 人間樹林の会

2/19(日) 樹林地内の粗大ごみ収集をしながら業者依頼で伐採する木として枯死した赤松・杉、マテバシイ、萌芽更新用のクヌギ1本などを選びました。

3月には保全活動6年目にしてはじめての萌芽更新の伐採を体験する予定。

4月是一日かけてじっくり樹林地全体の将来像を話し合うことにしています。(安部)



伐採予定のクヌギ

### カニ山の会

1/14は12月に刈った笹をカマドの燃料にしながら処分とお茶会を兼ねた。

2/11は全体会と同日だったので当日朝パネル展示準備をした。

【連絡会の意見】 公園での禁止事項が多すぎる。火に関して昔からの生業に関する事は許されているが、それ以外の焚き火も検討の余地がある。

### 凸凹山WS(布田崖線緑地)

1/22 梅の選定を予定していたが雪のため中止。2月は若宮八幡側の樹林を少し見通しよく伐採する予定です。

## 若葉町 3 丁目第 3 緑地の保全活動が始まりました

環境部緑と公園課の主催事業 ~ 若葉町第 3 緑地 ~

これまで自然観察会や緑地管理など各種講習を受けてきましたが、そこにはいつも客観的に見ている自分が居ました。地元の米、麦、胡桃、栗などで団子やうどんやパンなどを作って食べ、緑地で草、竹、木を刈って布や紙や染めや飾りなどの細工や工作を体験しているうちに、草木の囁きが聞こえる自分がそこに存在していました。

長い間放置された崖線斜面は落葉樹が点在する常緑樹の密林と化していますが、日本本来の照葉樹林として生物多様性を保持しています。その常緑樹たちの囁きが、今の自分には心地良く聞こえてくるのです。(中原)



### 調布あちこち⑤

布田と染地の間にある通称「へし山」。布田崖線の一部として樹林の残る場所です。数年前までは西側の道沿いから舗装されていない道が樹林まで続き、雪の日の美しさといったら調布でもとびきりの場所でした。今では住宅地としての開発が進みすっかり様子が変わってしまいました。

雑木林塾生が笹刈りをしていた場所は遺跡が出たため、国・都・市が買い取りましたが、笹は刈り取られコンペイトウのような実をつけていたモミジバフウやコゲラのつづいた木も伐採され、すっかり明るい場所になってしまったのはとても寂しい気がします。

崖線を一段下がった南側はわずかに残る田んぼや畑が里山的な面影を残しています。この季節は水の無い田んぼに色々な草が出てきます。今年はノボロギクと言われる小さな黄色の花が目立ちますが、年によって勢力を伸ばす草が変化するのを見るのは面白いことです。

もう少し暖かくなると田んぼにセリ摘みに行く人を今年も見かけることが出来るでしょうか？  
(鍛冶直美)

写真入りのマップをみんなで見ながら、意見交換ができました。

## 里山の保全・・・市民のうごき 1月 ~ 2月

### 若葉町 3 丁目第 3 緑地

1月 会員の気持ちも考えて必ず草刈りなどの汗を流す作業を入れている。「山の神は嫉妬深い」という小イベントが大うけ。

2月は子供の参加もあったので、緑と公園課から頂いたマップに樹種別色分けをして林内を観察。崖線が2段になっていて、中段下段はシラカシ・スギ。上段は落葉樹が多い。色分けマップによって今後の方針や手入れ場所がわかり易くなった。

3月は貴重種をマーク、落葉樹の整理もやりたい。(中原)

### こどもエコクラブ

3月の活動はありません。(飯田)

### れんらく会

2/13(月) 出席者：5名。司会：安部、議事録：鍛冶が担当。各樹林地の保全活動の情報交換をした。

\*2/11 全体会の感想：「とことん」までは話せなかった。もっと突っ込んだ話がしたかった。

\*講演は講師に市民の水みち調査などの資料をお送りし、講演に取り入れてお話し、成功だった。

\*展示は団体名の統一の掲示が無いなど事務局に不備があった(え)

ちょうふ環境市民懇談会  
れんらく会・市民活動の記録  
1月~2月の活動より

### 懇談会 06 年度運営委員

2/11 全体会の最後に2006年度の運営委員を選出した。

運営委員長は3/13に互選する。

#### 市民委員：

- ・安部宝根さん・江刺益子さん
- ・鍛冶直美さん・里 厚雄さん
- ・中原義之さん・小島啓二さん
- ・近藤光弘さん・尾辻義和さん

#### 行政委員：

- ・環境保全課：飯田さん

\*1年間、よろしく願います

## 市民参加 活動カレンダー

## おしらせ

## 環境モニター

3/4(土) 9:30~13:00

集合場所:多摩川みんなの広場南土手ベンチ  
 内容:作業と学習会/午後は多摩川の植物調査  
 連絡先:環境保全課へ

## かに山の会

3/11(土) 10:00~12:30

場所:深大寺自然広場入り口集合(野草園前) /  
 内容:植物調査。主にかに山東樹林の保全活  
 動を行っています。直接参加も可。連絡先:  
 環境保全課へ。直接参加も可。

## 若葉町3丁目第3緑地-保全活動

3/12(日) 10:00~12:00

集合場所:入間地域福祉センター  
 内容:希少樹種のマーキングおよびA邸隣接  
 落葉樹林の下草刈り。はじまったばかりの活  
 動です。ぜひご参加下さい。連絡先:緑と公  
 園課(加藤・黒川)0424-81-7083

## 人間樹林の会

3/19(日) 9:30~12:30

場所:入間地域福祉センター集合/内容:はじめ  
 ての萌芽更新 原則毎月第3日曜日に活動し  
 ています。問合せは環境保全課へ

## れんらく会(ちょうふ環境市民懇談会)

3/20(月) 18:30~20:30

場所:たづくり301

内容:\*活動グループ情報交換

市内で自然環境の保全活動しているグルー  
 プ・個人の情報交換の場です。これから活動  
 を始めてみたいと考えている方もどうぞご参  
 加下さい。

## 凸凹山公園ワークショップ(布田崖線緑地を考える市民の会)

3/26(日) 10:00~12:00

場所:現地(若宮八幡向かいの緑地)

内容:シイタケの菌打ち

連絡先:緑と公園課(管理係松倉,吉田)  
 0424-81-7081

~\*~\*~\*~\*~懇談会新企画~\*~\*~\*~\*~

市民力アップ講座~環境保全を進めるために  
第1回:「ワークショップのすすめかた・企画の立て方」

日時:3/7(火) 18:30~20:30

場所:調布市民文化会館たづくり1102会議室

対象:現在環境保全の活動をしている人・継続したい人  
 受講希望の方は事務局:環境保全課へお申込みください。

## ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

3/13(月) 18:30~20:30 場所:たづくり301

内容:全体会反省 06 運営委員長互選 講座企画ほか  
 調布の自然環境について市民と行政で話し合っ  
 ています。興味のある方はどなたでも傍聴歓迎です。

## 調布の自然(生き物編)-ハクビシン

鼻から両目の間を貫く白い模様が特徴的なハクビシンの目撃情報が、年間10件以上も環境保全課に寄せられています。

出没地域は、市街地である小島町2丁目から染地、八雲台、深大寺など、ほぼ市内全域に渡っています。

「タヌキに似たような何か?」「アナグマのような動物」と見えるようですが、実態はジャコウネコ科で、体長50cm~70cmとネコよりひと回り大きく褐色を中心とした体色。雑食性で適応力が高く夜行性で人目につきにくいことが生息地を広げる要因となっているのです。

これは4年程前の新型肺炎SARS報道でペットとして飼育されていたハクビシンたちが、心ない飼い主たちによって飼育を放棄されてしまったことに起因しているようです。人間の都合で飼われ、都合が悪くなると捨てられる生き物たち。生態系を荒らさない生き物との付き合い方のルールが必要になってきています。

(環境保全課:飯田)

## 編集後記

2・11のとことん討論のとき、調布の飲み水(水道水)に地下水が入っていることを、「知らなかった」という人が複数おられたのには正直驚きました。もっと「調布の良いところ」を現住民にも転居してくる人にも、知らせていくことが求められているんですね。(編集当番:江刺益子)



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

発行:ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境保全課 tel 0424-81-7086

E-mail: [kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp](mailto:kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp)

調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます